

ソーシャル・キャピタルとしての 宗教に関する研究

人間科学研究科

教授 稲場 圭信



▶ 特徴・独自性

グローバル化が進む今、現代社会と宗教は重要なテーマとなっているが、稲場研究室では、現代社会の諸問題に真摯に向き合い、宗教社会学や現代社会学の理論をベースに、支え合う市民社会の構築に資する学際的な研究を構想している。

具体的には、学校、公民館、寺、神社、自治会といった「地域資源」と「科学技術」のコラボレーションによる新たな減災・見守りシステム（「たすかんねん」）の構築に取り組んでいる。また、全国の避難所および宗教施設あわせて約 30 万件のデータを集積した日本最大級の災害救援・防災マップ「未来共生災害救援マップ」(<http://www.respect.osaka-u.ac.jp/map/>)を開発し、防災の取り組みを通して、自治体、自治会、学校、寺社・教会等の宗教施設、NPO などによる平常時からつながり、コミュニティ作りに寄与し、災害時には救援活動の情報プラットフォームとなることを目指している。

さらにどのような条件や環境のもとで宗教者・宗教施設が行政や市民と災害時に協力することが可能になるのか、平常時の見守り等で協力することができるのかを問い、科学技術も取り込んだ減災・見守りシステムを産官学の連携によって構築し、それを社会実装につなげようとする研究を進めている（科研費・基盤研究 A「宗教施設と行政と市民の連携による減災・見守り」2019-2023 研究代表：稲場教授）。

▶ 社会実装と実用化への可能性

現在構築中のシステム「たすかんねん」では、災害時に、大規模な障害が予想される通常の通信網に代替し、災害下においても、減災・見守りの社会サービスが維持できるものを目指している。



たすかんねん

風力・太陽光発電、蓄電池、通信、LED 電灯、見守りカメラといった機器を備えた独立電源通信装置



未来共生災害救援マップ

寺院、神社、教会などの宗教施設約 20 万件、学校や公民館などの指定避難所を合わせて約 30 万施設をマップにしたもので、インターネット上で無料公開している。



大阪大学社会ソリューションイニシアティブ (SSI) 基幹プロジェクト

「地域資源と IT による減災・見守りシステムの構築」（研究代表：稲場教授）での共同研究全体イメージ
<http://www.ssi.osaka-u.ac.jp/activity/core/disasterprevention/> 参照

特 許

論 文

稲場圭信、河野まゆ子 (2019) 『『東京都宗教施設における災害時の受入体制調査』報告』『宗教と社会貢献』第 9 巻第 1 号、2019 年 4 月、pp.49-61.

参考 URL

<http://altruism.blog56.fc2.com/blog-entry-287.html>

キーワード

宗教、地域資源、防災、減災、見守り

行動経済学

経済学研究科

教授 大竹 文雄



特徴・独自性

伝統的な経済学では、人々は非常に合理的で、素晴らしい計算力をもっており、自分の利益のみを考えて行動する人々を前提にして、経済の動きを説明してきた。しかしながら、人間の意思決定には合理的決定から系統的な“ずれ”があることが実験研究や実証分析から明らかにされており、これが行動経済学の始まりである。

現実の人々は、必ずしもいつも最適な選択をしているわけではないため、行動経済学をうまく使うと、人々の選択の自由を維持したまま、人々はよりよい選択ができるようになる。

大竹研究室では、損失回避、現状バイアス、社会的選好、限定合理性という現実的な人間像の特徴から、様々なシチュエーションにおける現実の人間の実際の行動を理論的に予測・検証し、行動経済学を現実社会の様々な課題の解決に活用しようとしている。

社会実装と実用化への可能性

行動経済学は、理想的な人間と、現実の人間とのギャップを通して、働き方改革、マーケティングなど、人間の社会活動の様々な課題の解決に活用できる。

伝統的経済学が扱う人間

「合理的経済人」

- ✓ 完全な情報
- ✓ スパコン並みの計算力
- ✓ 感情を持たない
- ✓ 完全に利己的



モデル化容易、現実離れ

行動経済学が扱う人間

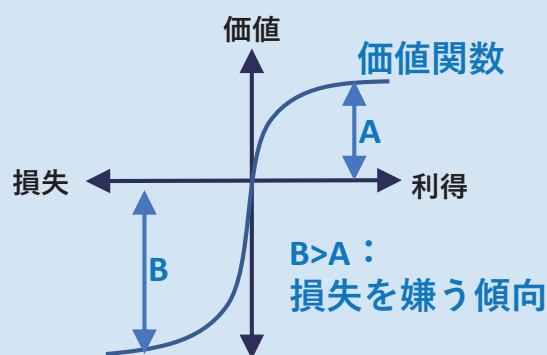
「生身の人」

- ✓ 不完全な情報
- ✓ 勘違いも多発
- ✓ 感情的
- ✓ ある程度利他的



モデル化困難、現実説明可

プロスペクト理論



特許

論文

"Long-Term Consequences of the Hidden Curriculum on Social Preferences " The Japanese Economic Review, accepted, November 2019, (Takahiro Ito, Kohei Kubota, Fumio Ohtake)
大竹文雄『行動経済学の使い方』(岩波書店、2019年)

参考URL

<http://www2.econ.osaka-u.ac.jp/~ohtake/index.htm>

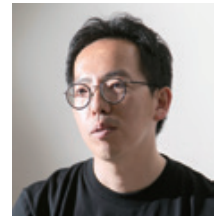
キーワード

行動経済学、プロスペクト理論、現在バイアス、社会的選好、ヒューリスティックス、ナッジ

「仕掛学」 ～行動変容の理論と実践の研究～

経済学研究科

教授 松村 真宏



▶ 特徴・独自性

松村研究室で研究している仕掛学は、人の行動を変える「仕掛け」を対象にした新しい学問分野である。仕掛けは行動変化を強制するのではなく、魅力的な行動の選択肢を増やすことで目的の行動に誘うアプローチをとる。例えば、ゴミ箱をただ設置してもゴミを捨てたくはならないが、ゴミ箱の上にバスケットゴールを付けるとゴミでシュートしたくなり、結果的にゴミ捨て行動が促進される。

松村研究室では、さまざまな現場を対象にして実際に仕掛けを考案して製作し、実際の現場で実験し、効果の検証に取り組くことを通して、行動変容の理論と方法の構築に取り組んでいる。



ゴミ箱の上にバスケットゴールがあると
ゴミでシュートしたくなる

▶ 社会実装と実用化への可能性

仕掛学はマーケティングなどさまざまな分野に応用が可能であり、鉄道駅やショッピングセンターでの人流制御など、実際の現場での実証実験なども積極的に推進中である。



つい手を突っ込みたくなる
ライオン口型手先消毒器

特許

論文

Naohiro Matsumura, Renate Fruchter, Larry Leifer (2015) Shikakeology: Designing Triggers for Behavior Change, *AI & Society*, Springer Verlag, Volume 30, Issue 4, pp. 419-429. c. 30(4): 419-429 (November 2015)

参考URL

http://www.osaka-u.ac.jp/ja/news/storyz/special_issue/research_topic_nl75/201703_special_issue03

キーワード

仕掛け、行動、変化、行動理論